

法友 *For You* 2025. 1 No.65

【発行】(公社)伊勢法人会 女性部会広報委員会
〒516-0037 三重県伊勢市岩渕1丁目7-17
伊勢商工会議所5階
TEL 0596-28-5665 FAX 0596-24-8315



河原神社

新しい税の啓発活動事業にチャレンジ



部会長
原田 佳代子

新年あけましておめでと
うございます。

令和七年の新春を健やかに
迎えられたこととお慶び申し
上げます。

旧年中は、伊勢法人会女性
部会の活動にご協力いただき
誠にありがとうございました。

令和六年は、伊勢法人会女
性部会の最重要事業である小
学校での租税教室も十回開催
し、多くの小学生に「税金の
必要性、税金がどのように活
用されるのか」を学んでいた
だくことが出来ました。また、
女性部会主催「税に関する絵
はがきコンクール」には、そ
の租税教室で学んだ税への知
識を、小学生らしい表現力で
描いた作品六四二枚の応募が
あり、初応募の学校も一校ご
ぞいました。

展示に関しては、イオンタ
ウン伊勢ラパーク様、鳥羽
一番街に加え、初めて志摩市
役所様にも御協力いただけ
るようになり、私たちの税の啓
発活動にも一段と熱が入るこ
ととなりました。

また、今までの「夏休み親
子映画会」を「夏休みファミ
リイベント」と改め、新し
くチャレンジ致しました。税
金クイズは元より、世界的パ
フォーマーである「ちゃんへ
ん」氏をお迎えし、素晴ら
しいジャグリングの技と、
「どんなことでもあきらめず
チャレンジすることが大切」
というお話を、真剣に聞いて
いる児童たちの顔、まなざし
は、新しくチャレンジした事
業への励みとなりました。

また、私達自身が自己研鑽
出来る「バス研修」「グルー
プ別税務研修会」も実施する
ことができ、研修の回を重ね
るたびに、部会員の輪が強固
になっていることを確信致し
ております。

今年、伊勢法人会女性部
会設立四〇周年という節目を
迎えます。これまで以上に、
皆で知恵を出し合いながら、
地域への貢献活動として法人
会女性部会の活動を進めてま
いりたいと思います。

昨年同様、税務当局の皆様、
親会の皆様、本年も宜しくご
指導賜りますようお願い申し
上げ新年のご挨拶とさせてい
ただきます。

合同スポーツ 交流会

令和6年9月24日

「合同スポーツ交流会」がい
せシティブラザで開催されま
した。

好評だった昨年と同じくイン
ストラクターの方に「オフィス
で使える脳トレ&ストレッチ」
をご指導していただきました。

間違っていないでもそれを考える
時が脳が動いていると教えてい
ただきました。

楽しく椅子を使い気軽に体を
動かせるのでこれからもオフイ
スで活用できたらと思います。

女性部会十七名、青年部会九
名、税務署十五名、合計四十一
名にご参加していただきました。
ありがとうございました。



バス研修

令和6年11月6日

三十一名のご参加をいただ
き、秋晴れの過ごしやすい天候
の中、バス研修に出かけました。

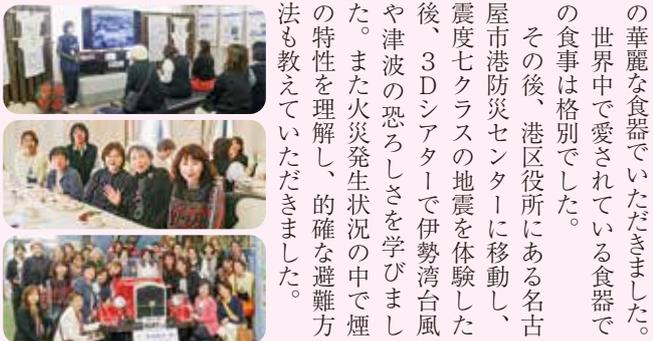
榮にリニューアルオープンし
た「中日ビル」では、買い物
したり、屋上に

ある広場から街
並みを一望した
りと自由散策を
楽しみました。

赤レンガ造り
のノリタケの森
「レストランキ
ルン」では創作
フレンチを一皿
一皿、ノリタケ

の華麗な食器でいただきました。
世界中で愛されている食器で
の食事は格別でした。

その後、港区役所にある名古
屋市港防災センターに移動し、
震度七クラスの地震を体験した
後、3Dシアターで伊勢湾台風
や津波の恐ろしさを学びまし
た。また火災発生状況の中で煙
の特性を理解し、的確な避難方
法も教えていただきました。



日本は災害大国なのでとても
関心の高い内容でした。
帰りの車内では恒例の税金ク
イズとじゃんけんでもとても盛り
上がり、疲れも忘れて楽しい時
間を過ごしました。

第30回 情報交換会

令和6年10月28日

ホテルグリーンパーク津に於
いて女性部会連絡協議会第三十
回情報交換会が開催され、伊勢
法人会からは六名が参加しまし
た。

当該交換会は二部構成で、第
一部は「人の輪と和を大切に
〜次世代につなぐ租税教育を
〜」というテーマで津法人会女
性部会の発表がありました。

第二部は浅田政志氏（津市出
身写真家）による「写真の極上
の味い方」という講演でした。



時の人



伊勢税務署
法人課税第一部門
統括官
伊勢 裕康 氏
まさひろ やす
まさ い 裕 康

★ご出身・年齢をお聞かせください。
昭和三十八年生まれで五十一歳です。

兵庫県の洲本市出身です。洲本市は淡路島という島にあります。

子供のころは田舎でしたが、明石海峡大橋ができてからは、観光地化が進んでずいぶん賑わっています。海もすぐそこにあつて、食べ物はおいしいし、いいところだと思えます。夏休みには、帰省して海水浴等を楽しんでいます。

たまねぎの産地としても有名で淡路の玉葱は甘味があつてとても美味しいです。実家もたまねぎ作っているのですが、今でも送ってもらっています。

高校まで淡路島で育ちましたが、就職を機に三重県に住むことになり、今は伊賀市に居を構えて、伊勢まで通勤しています。

★ご家族構成をお聞かせください。
妻と小学五年の男の子の三人家族です。

★伊勢に来られての感想をお聞かせください。
伊勢税務署勤務は平成二十二年以来十四年ぶりの勤務になります。

前回勤務の時も思いましたが、伊勢は人も街も穏やかで居心地のいいところだと感じています。伊勢や鳥羽は家族で遊びにくることがよくある好きな場所です。毎日、伊勢市駅でおりに、きれいな駅前を歩くのは気分もいいです。

★伊勢に来られる前のお仕事を
お聞かせください。
前年は、松阪署の法人課税部門統括官でした。

松阪署は一部門だけなので調査も内部事務どちらも担当しておりました。

そのなかで、松阪法人会のみなさまの会議や行事などにも参加するなど忙しい日々でしたが、そんな多忙な中でも、時間をうまく使って仕事をする事を学べたと思います。

また、はじめて法人会の皆さんと一緒に仕事する機会を得て、法人会の皆様の税務行政へ

のご貢献を直に感じる事ができました。

★趣味をお聞かせください。
スポーツ観戦、音楽鑑賞、旅行などです。

スポーツはJリーグのガンバ大阪が好きで、息子とよく観戦に行きます。今年は広島や東京にも遠征して、観光も一緒に楽しむことができました。ネット配信でも観戦しますが、やはりスタジアムでゴールが決まったときのサポーターの一体感がたまりません。

音楽のほうはMr.Children、B'z、ゆずが好きでライブには必ず行っています。コロナが落ち着いてライブで声が出せるようになってきて、これも会場の一体感が好きです。

スポーツもライブも観客の出す声援があつて完成するのだからとコロナ禍の声出し禁止の時期を通して強く思いました。もうあのようなことがないことを願っています。

★座右の銘をお聞かせください。

「温良恭儉」です。仕事をしているといろいろな感情が生まれますが、怒っても偉ぶっても得することはないので、おだやかに謙虚に対応することを心がけています。

★心がけていることをお聞かせください。
フットワークよく動くことです。どうせやらなければならぬことなら、早めに終わらせたい。特にやることに気が進まない仕事はそうですが、なるべく早く取り組んで対処していきたいと思っています。どちらかというと、そういうことは後回しにしがちな性格です。余計に意識してそうしています。

あとは健康です。去年、はじめて入院を経験して、体がままならないことのつらさを実感しましたので、普段から健康には気をつけたいと思っています。

★印象深い仕事・勤務地をお聞かせください。
印象深いのは、国税局の課税第二部資料調査課で勤務したことです。この部署は複雑・困難で大口の不正が想定される法人を中心に調査を行う部署です。

周りの職員のレベルも高く、自分としては力及ばず、精神的にはつらい日々でしたが、その時の経験でその後生きていくと思えることは多々あるのだと思います。

で、その時はしんどくても何でも何かにつながっているのだなと思います。

★(公社)伊勢法人会女性部会にメッセージをお願い致します。
平素から租税教育など税務広報に多大なご協力をいただいております。ありがとうございます。

夏休みファミリーイベントには私も参加させていただきましたが、女性部会の方の熱意やパワーを直に感じる事ができ、感激しました。また、租税教室や絵はがきコンクール等、子供たちに対する租税教育を非常に熱心に取り組んでおられ、本当に感謝しております。

★今後の女性部会に一言お願い致します。
部会長はじめ役員、会員の皆様です。ますます女性部会を盛り上げていただき、引き続き活発な活動をされますことを期待しています。今後ともよろしくお願ひします。

広報より

座右の銘は「温良恭儉」と仰る統括官は、まさに穏やかな雰囲気をお持ちの方でした。ご家庭でも夫として、父としてご家庭への関わり方に愛情深さを感じました。女性部会も統括官の穏やかさに包まれ、活動できることを嬉しく思います。楽しいお話ありがとうございました。

リイベント

2024.8.2
 於：阿児アリーナ
 179名



組織委員会より

八月二日志摩市阿児アリーナにて「夏休みファミリーイベント」を開催いたしました。「夏休み親子映画会」から『夏休みファミリーイベント』に事業を変えて取り組みました。当初、申し込みの少なさに慌てましたが、締め切り間近に志摩、伊勢の放課後児童クラブを周り、事業の説明をして参加のお願いをしました。また、親会の会合にも伺い、集客の協力依頼をさせていただきました。その結果、子供八十六名・大人五十一名・税務署・親会・部会員・スタッフ合わせて総勢一七九名の参加で無事に終えることが出来ました。

第一部「租税教育」では、低学年から高学年まで全員参加の税金〇×クイズをしました。税金博士の答えと説明を聞いて、ご家族の方も納得していただけた様子でした。最終残ったクイズ正解者には、けんた君グッズをプレゼントしました。その時には、税務署のマスコットのイータ君も登場してくれました。

第二部では、大道芸人の「ちゃんへん。」氏の「ジャグリングショー」を鑑賞しました。途中、子供達を舞台に上げ、ディアポロを教示してもらい、会場は大いに盛り上がりました。



リハースル

税制・組織の担当委員会だけでなく、沢山の方々のご協力により無事に執り行えたことに感謝いたします。時代の変化とともに変えていかなくてはならないことなども、その都度皆で話し合いながら、これからの『夏休みファミリーイベント』をより良いものにしていければと思います。ありがとうございます。

七月二十三日、伊勢商工会議所大ホールにて「夏休みファミリーイベント」のリハースルを行いました。

組織委員会と税制委員会が中心となり税金博士をお願いした伊勢税務署正井統括官にもご参加いただき、当日各担当の会員の皆様も含め二十五名の参加でした。税金クイズやタイムスケジュールなど本番のような流れで練習が行われました。皆様とても意欲的に取り組んでいただき感謝申し上げます。

ご参加くださいました皆様ありがとうございました。



2024.8.21
於：いせトピア
190名

夏休みファミ



税制委員会より

八月二十一日伊

勢市生涯学習セン
ターいせトピアに
て「夏休みファミ

リーイベント」を開催いたしました。伊勢
会場は一九〇名のご参加をいただきました。

第一部は、小学生への租税教育活動とし
て、伊勢税務署正井統括官に税金博士をお
願ひして「税金〇×クイズ」をしていただ
きました。クイズの内容も小学生が興味を
持てる問題をたくさん出していただき、会
場は大いに盛り上がりました。税金のこと
を楽しみながら学んでもらえて嬉しく思
います。また、国税庁e-Taxキャラクター
1、イータ君がクイズ正解者に景品を渡す
のを手伝ってくれて花を添えてくれました。

第二部は、例年の映画から違ったことを
やってみようという試みでジャグリングシ
ョーの鑑賞にしました。世界的パフォーマ
ーの「ちゃんへん」氏によるショーで、
目の前で練り広げられるパフォーマンスに
ご来場の皆さまもスタッフも魅了されまし
た。最後に子供たちにディアボロの回し方
を教えてもらって喜んでいただきました。
夏休みの良い思い出になっていただけれ
ば幸いです。これからも子供たちと楽し
みながら租税教育活動に取り組んでまい
りたいと思っております。

ご協力いただきました皆様ありがとうございました。



税に関する

絵はがきコンクール

毎年、伊勢市二十二校、鳥羽市七校、志摩市七校、玉城町四校、度会町一校、大紀町四校、南伊勢町三校の各小学校に七月～九月まで税に関する絵はがきの作品を募っています。

コロナ禍では減少傾向にあった応募も、今年はカリキュラムの変更等により小学校での租税教室が早い時期に行われた事もあり、二十校六四六枚の応募がありました。

中には、小学生が書いたとは思えないような絵もあり、着眼点に驚かされました。

また、展示場所は昨年同様、鳥羽一番街様、イオンタウン伊勢ラパーク様に加え、今年度初めて志摩市役所様に展示させていただく事となり、沢山の方の目に触れ、児童の皆さんだけでなく、大人の方も今まで以上に税金に興味持っていただけだと思います。



第14回 税に関する 絵はがきコンクール

入選作品

公益社団法人伊勢法人会 女性部会

絵はがき審査会

審査会では、伊勢税務署長はじめご来賓の方々と女性部会員が審査をしました。皆様のお声かけもあり全部で二十校六四六点もの応募があり、どの作品も力作で選ぶのが大変でした。



税に関する絵はがきコンクール展示の準備



各受賞作品をはじめ、全ての応募作品を展示する準備の様です。どの作品も感性豊かで、それぞれが納税の大切さを訴えています。皆さんに見ていただきやすいよう配置も工夫しました。



伊勢シティプラザにて税金展が開催され、税に関する絵はがきコンクールの審査会で入賞に選ばれた児童の表彰式が行われました。また、全応募作品を展示し、来ていただいた方には簡単な税金クイズを行いました。このような活動を通じて、少しでも多くの方に税金について知ってもらえたらと思います。



会員募集中

伊勢法人会女性部会員を募集しています。女性部会へ参加して税の知識を深めて、色々な場面に役立てましょう。詳しくは、事務局までお問合せ下さい。

納税表彰

令和6年11月22日
於：伊勢シティホテル
おめでとーございませう



★伊勢税務推進協議会長表彰
株式会社小久保鉄工所
小久保 元美
〈敬称略〉



★伊勢税務署長表彰
鳥羽観光会館ビル株式会社
原田 佳代子

講師養成研修

令和六年九月四日税務署にて講師養成研修が行われました。

租税教室

鳥羽市立加茂小学校
9月12日(木) 4限目
児童数17名で開催させていただきました。

少ない児童数でしたが講師、補助もすっかり租税教室に取り組んでいただき児童の皆さんも授業に積極的に参加してくれました。

DVDも好評で一億円のレプリカもみんな喜んで持ち上げてくれました。

税金はいいイメージがなかったけど税金の勉強をしていいイメージができました。



十二月二日にグループ別税務研修会を控え、十一月十八日、伊勢商工会議所五階大ホールにて理事会の後で、事前の勉強会を行いました。

ご多忙の中、正井統括官、柳瀬上席にご出席頂き、グループ別税務研修会の座長、発表者を含め、女性部会員十七名が出席しました。

グループ別税務研修会の四つの設問について、約一時間にわたり、柳瀬上席から解説頂きました。

関連した資料も多数ご用意頂き、出席者は熱心にメモをとりながら聴講しました。有意義な勉強会でした。

グループ別税務研修会 事前勉強会

令和6年11月18日

太神宮 あちこち

第20回

河原神社

神宮禰宜 石垣仁久

一、川の流れと神宮

神宮の祭典や経済は、河川によって支えられてきた一面があります。内宮は五十鈴川、外宮は宮川と勢田川が重要な川で、式年遷宮の御用材をはじめ、神饌品や様々な物資は海路を経て、川を利用して神宮の神域に運び込まれていました。そのため、神宮の撰末社には、川に関係する神社が少なくありません。

社名から見ても川に関する神社は、津長神社・大水神社・江神社・川原神社・御船神社・多岐原神社・川相神社・熊淵神社（以上内宮、以下は外宮）大河内神社・高河原神社・河原神社・河原淵神社・大津神社など十三社に及びます。

このことは、神宮のお祭りに河川が欠かせない存在であったことを物語っています。

二、河原神社と川原神社

伊勢市御園町新開に、外宮撰社河原神社があります。内

宮撰社にも川原神社があつて紛らわしいのですが、昔は内宮と外宮はそれぞれで管理されていたので、同名の神社があつても問題はなかったのだ

でしょう（宮後の月夜見宮も月読宮と表記されていた程です）。河と川はカワを表す字ですが、大きなカワに河を用いる傾向があるようです。河原と川原の違いも、川の規模によるようで、両方とも川の両側で通常は水が流れていない土地をさします。

外宮の川原神社は、十世紀に成立した『延喜式』の「巻四伊勢大神宮」では河原大社となつています。また、「巻九神名上」には、川原がつく神社が川原神社と川原坐国生神社の二社が記されています。川原坐国生神社は、現在月夜見宮域内の高河原神社だろうとされています（ただし、更なる研究が必要と思われま

す。『延喜式』の河原大社が記載順から見ると、川原神社と同

一社と思われるですが、大社と記されたことには何か理由がありそうです。「大」と「神」の字の書き間違い、いわゆる単純な誤写でないことは明らかです。なぜなら、鎌倉時代に成立した『伊勢二所太神宮神名秘書』と『類聚神祇本源』の両方に、川原大社とあり、鎌倉時代には大社と表記されたことがわかります（河と川の違いがありますが同一社として、以降は河原神社と記します）。

内宮の藺田守良神主は『神宮典略』で、『神名秘書』が川原坐国生神社は高河原神社のことで、月夜見命の御玉を祀るとする説は間違いと否定した上で、川原は地名ではなく土地の形状であり、大社と記したのは国生神が祀られているからと考察しています。この説には無理があるようです。

一方、外宮の御巫清直は『二宮管社沿革考』で、延喜式神名帳は、一つの郡の中に同じ名前の神社がある場合には、一方を大社として区別する例があるとして、河原大社は河原神社であると考察して

います。諸説あつて複雑ですが要は、河原大社と、川原大社と河原神社は同一社であるという事です。

三、川原神社の旧地

河原神社が河川に関する神社であることは、社名から容易に想像ができ、『神名秘書』は川神と水神の二柱の神を祀るとして、「字三津の社なり、箕曲匂村にあり」としています。箕曲は昔の郷の名称で、郷の中を勢田川が蛇行する様子を表したのが水曲で、箕はその当て字と言われます。現在宇治山田駅前に箕曲中松原神社が鎮座している岩淵辺りから、大湊・神社付近までの勢田川周辺の村々が箕曲郷に属していました。

また匂村を江戸後期の国学者石崎文雅の『郷談』（一七七九年成立）は、下野村の大匂村にあるとして、河原神社が新開村にあるのはおかしいと述べています。

実は、河原神社も他の撰末社同様、中世以降行方がわからなくなり、現在地は寛文年間（一六六一〜七三）の撰末社再興の際に選ばれたもので、その経緯は『式内社調査報告』第六巻（平成二年 皇學館大学出版部）に詳しく記されています。それを要約すると、『神名秘書』の「字三津の社なり」は、「字三社は社社なり」であるかと考え、外宮末社の毛理神社と河原大社と同じ社地であつたとする説により、寛文に河原神社は古老の話を基に現在地に再興され、明治三年に毛理神社が河原神社に同座する形で再興されたのです。

これには疑問が残つたように、昭和四年神宮司庁発行の『神宮要綱』は、「匂の地名は鎌倉時代に於て既に存せること、光明寺旧記及び神宮雜書に載する所の文書によりて知るべく、之を地理と遺跡とに徴するに、今の御園村の東部より神社町に亘る地域之に相当するが如し。然れども寛文再興の現社地が果して真の古址たるや否やに至りては、容易に之を断言し得べからざるに似たり」と記しています。